

まちの連携で

災害に備える

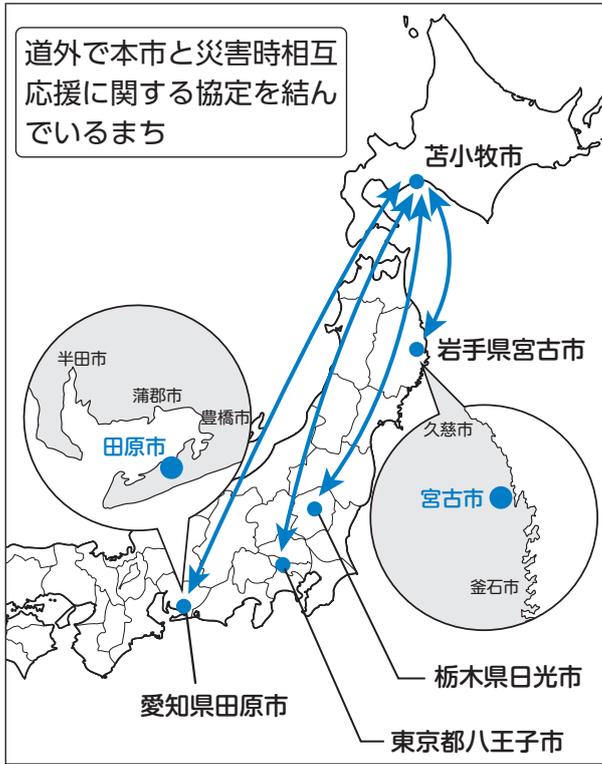
私たちのまちは、災害と無縁ではありません。今も火山活動を続ける樽前山を有する一方、太平洋に面するまちとして、津波への警戒も必要です。これらによる大規模な災害が発生した場合、市のみの対応では、市民の生命・財産を守れないケースが考えられます。そのような災害が発生した時に、市町村の垣根を越えて、お互いのまちを助けるため、他の自治体などとの間に締結されるのが災害時相互援助協定です。その相互支援の内容は、食料・飲料水・生活必需品などの物資や、救出・医療・施設の応急復旧に必要な資機材の援助、そして、ライフラインや自治

体機能の復旧に必要な職員の派遣などです。近隣市町村だけではなく、同一災害で被災する可能性が少ない遠隔地と協定を結ぶことにより、より効果的な災害への対応が期待できます。

苫小牧市は、民間企業のつながりを縁として、今年1月に自動車産業が盛んなまち「愛知県田原市」と、そして5月にはsea級グルメ全国大会などで交流のある漁業と観光のまち「岩手県宮古市」と、それぞれ災害時に助け合うために協定を結びました。



平成26年5月21日 宮古市との協定締結時の様子



道外で本市と災害時相互
応援に関する協定を結ん
でいるまち

道内で本市と災害時相互
応援に関する協定を結ん
でいるまち

恵庭市 千歳市 厚真町
安平町 白老町 むかわ町

協定を結んだ

宮古市

宮古市は本州最東端に位置するまちで、人口約5万7千人、面積は苫小牧市の2倍強の大きさ、約千260km²です。自然に恵まれ、特に名勝と言われる「浄土ヶ浜」が有名な観光のまちです。その美しい海では、漁業が盛んに行われており、アワビや養殖ワカメの漁獲量は全国で5本の指に入ります。また、大きさが特徴の「花見かき」や「南部鼻曲がり鮭」などの宮古ブランドも人気があります。

そんな豊かな恵みを与えてくれる海から、平成23年3月11日、東日本大震災による大津波が押し寄せ、まちに大きな被害を与えました。



全国有数の漁獲量「アワビ」



濃厚な味わい「花見かき」



秋の味覚「南部鼻曲がり鮭」